

第30回(2020年)
全国花のまちづくりコンクール

花博の理念を継承してこの事業を推進しています。



提唱

農林水産省
国土交通省

主催

花のまちづくりコンクール推進協議会

〔公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 公益財団法人都市緑化機構
一般財団法人日本花普及センター 公益財団法人日本花の会〕

後援

文部科学省 全国知事会 全国町村会 (一社)日本新聞協会 (一社)日本経済団体連合会 全国市長会 **NHK**

協賛

(一社)日本花き生産協会 (一社)日本花き卸売市場協会 (一社)JFTD
(一社)日本インドア・グリーン協会 (一社)日本種苗協会 (一社)日本施設園芸協会
(公社)日本フラワーデザイナー協会 (公社)日本家庭園芸普及協会 (公財)日本さくらの会
(一財)日本緑化センター (一社)日本植木協会 (一社)日本公園緑地協会 (一社)日本公園施設業協会
(一社)日本造園組合連合会 (公社)園芸文化協会 (一社)日本造園建設業協会
(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会 (一財)沖縄美ら島財団 (一財)公園財団 全国公園協会協議会
(一財)日本造園修景協会 (一財)地域活性化センター (公社)日本観光振興協会 (一社)日本ホテル協会

花のまちづくりコンクール推進協議会

事務局 公益財団法人 日本花の会・コンクール係
〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 コマツビル TEL 03(3584)6531 FAX 03(3584)7695
<http://www.hananokai.or.jp>

表紙の写真 第30回全国花のまちづくりコンクール 大賞受賞者

上段左 鈴木良枝・勝義 / 上段中 井上善人 / 上段右 社会福祉法人浄英会 恵和こども園
下段左 市民協働「熊谷の力」小江川地区1000本桜事業 / 下段右 株式会社平井料理システム「仏生山の森」

第30回(2020年)

全国花のまちづくりコンクール
報告書



花のまちづくりコンクール推進協議会

応募者数 1,690件 (市町村部門 2 団体部門 1,487 個人部門 144 企業部門 57)

花のまちづくり大賞…5件

農林水産大臣賞

個人部門 井上 善人 兵庫県淡路市

企業部門 株式会社平井料理システム「仏生山の森」 香川県高松市

国土交通大臣賞

団体部門 市民協働「熊谷の力」小江川地区1000本桜事業 埼玉県熊谷市

個人部門 鈴木 良枝・勝義 静岡県袋井市

文部科学大臣賞

団体部門 社会福祉法人浄英会 恵和こども園 新潟県長岡市

花のまちづくり優秀賞…11件

花のまちづくりコンクール推進協議会長賞

団体部門 浦戸諸島「海と花の物語」 宮城県塩竈市

団体部門 大湯「パンジーの会」 秋田県鹿角市

団体部門 東海村立白方小学校 茨城県東海村

団体部門 赤羽緑地を守る会 茨城県日立市

団体部門 袋井市花の会 静岡県袋井市

団体部門 つりがねにんじんクラブ 静岡県三島市

団体部門 新川姫蛭と花を守る会 大阪府高槻市

個人部門 益田 満智子 静岡県吉田町

個人部門 中谷 邦子 兵庫県豊岡市

個人部門 寺尾 康男・桂子 兵庫県朝来市

個人部門 松浦 さつき・千春 兵庫県たつの市

花のまちづくり奨励賞…14件

花のまちづくりコンクール審査委員会賞

市町村部門 荒尾市 熊本県荒尾市

団体部門 黄金自治会 宮城県涌谷町

団体部門 向陽台四丁目公園愛護協力会 宮城県仙台市

団体部門 南内越花いっぱいボランティアグループ 秋田県由利本荘市

団体部門 三坂公民館 栃木県茂木町

団体部門 中之条町花の会 群馬県中之条町

団体部門 西宮市立段上小学校 園芸美化ボランティア 兵庫県西宮市

団体部門 花てまりの会 和歌山県那智勝浦町

団体部門 みなべ町立高城小学校 和歌山県みなべ町

個人部門 後藤 光三・圭子 秋田県大仙市

個人部門 寺崎 啓乃 富山県富山市

個人部門 宮野 裕子 富山県砺波市

企業部門 静鉄プロパティマネジメント株式会社 静岡県静岡市

企業部門 南海電気鉄道株式会社なんばパークス 大阪府大阪市

入選…67件

団体部門

仙台市立柳生小学校 宮城県仙台市

松平松風会 茨城県常陸太田市

伊賀野の花畑 群馬県みなかみ町

南大野自治会 神奈川県相模原市

富山市立船崎小学校 富山県富山市

醍醐公民館 花と緑の推進部会 富山県高岡市

浜松市立泉小学校 静岡県浜松市

春日井市老人クラブ 関田東高砂会 愛知県春日井市

東園グリーン&フラワークラブ 愛知県尾張旭市

花いち会 愛知県半田市

刈谷市小垣江地区自治会 愛知県刈谷市

甲斐町水郷会 三重県鈴鹿市

寺本自治会 華の部 兵庫県伊丹市

西宮市社会福祉協議会 地域共生館 ふれぼの 兵庫県西宮市

名塩さくら台景観緑化クラブ 兵庫県西宮市

鶉野中町花家族の会 兵庫県加西市

下里ともこガーデン 和歌山県那智勝浦町

田辺市神子浜町内会 和歌山県田辺市

海南市立巽小学校 和歌山県海南市

榮々花グループ 広島県広島市

若松こうさてん美化Gr 福岡県北九州市

フラワーアップ高宮 福岡県福岡市

会津若松市立川南小学校 福島県会津若松市

旭町西区会 茨城県笠間市

川場美しいマチ研究会・門前まちづくり委員会 埼玉県新座市

中在家多面的活動団体 新潟県十日町市

富山県高岡市立野栄町自治会 花づくり会 富山県高岡市

かわづ花の会 筏場地区花壇 静岡県河津町

伊豆の国市商工会女性部 静岡県伊豆の国市

春日井市立東高森台小学校 愛知県春日井市

有脇菜の花クラブ 愛知県半田市

いきいき刈谷友の会ガーデニング部会 愛知県刈谷市

U.R笹川なでしこ会 三重県四日市市

すみれ・花フレンズ 大阪府大阪市

ガーデニング倶楽部 兵庫県神戸市

姫路市立城北小学校 兵庫県姫路市

伊丹市フラワーリーダー 8期生 兵庫県伊丹市

網干公園みどりの会 兵庫県姫路市

古尾花の会 和歌山県田辺市

白浜町立南白浜小学校 和歌山県白浜町

かつらぎ町立梁瀬小学校 和歌山県かつらぎ町

檜原ゆうあい会 山口県下関市

箱崎花の会 福岡県福岡市

霧島市立天降川小学校 鹿児島県霧島市

個人部門

村井 有子 群馬県太田市

宮崎 桂子 三重県津市

末松 和佳子 兵庫県神戸市

尾花 幸雄 兵庫県加西市

三村 雅之 兵庫県姫路市

藤田 妙子 兵庫県朝来市

松本 直美 兵庫県南あわじ市

桐原 将臣 和歌山県田辺市

森山 幸代 和歌山県田辺市

須川 伸夫 富山県南砺市

有働 美穂 三重県伊賀市

奥川 きみ子 兵庫県西宮市

諏訪 早苗 兵庫県姫路市

苅尾 安正・希美子 兵庫県たつの市

太田 よしの 兵庫県香美町

那須 幹夫 和歌山県田辺市

森 千明 和歌山県上富田町

宇都 豊行 福岡県北九州市

企業部門

まごころ*でい*藤枝南 静岡県藤枝市

大泉緑地 指定管理グループ 大阪府堺市

戸畑なかしま歯科 福岡県北九州市

一般社団法人御堂筋まちづくりネットワーク 大阪府大阪市

社会福祉法人神愛会 和歌山県上富田町

努力賞…4件

若葉賞

団体部門 しもつけオープンガーデンクラブ 栃木県下野市
片上まちづくり協議会生活環境部会 福井県鯖江市

年輪賞

個人部門 松本 捨吉 大阪府富田林市

四つ葉賞

団体部門 介護老人福祉施設 豊田一空園 静岡県磐田市



コンクール審査委員長
齋藤 京子

1990年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」を契機に、その基本理念「自然と人間との共生」を継承し、それを発展させるために、1991年から「全国花のまちづくりコンクール」が始まりました。「花のまちづくり」は、人と花や緑が、また花をめぐる人と人が互いに影響しあって、家庭や公共の場で、美的なセンスを磨き、花を介した交流を活発に行ない、生き生きとした美しく心地よい地域をつくっていくものです。今年その記念すべき30回目を迎えることができました。第30回全国花のまちづくりコンクールは、昨年を147点上回る1,690点の応募がありました。新型コロナウイルス感染症拡大という困難な状況の中、ご応募いただいたすべての皆様に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。皆様が社会性のある花のまちづくり活動を長年続けておられますことに深く敬意を表します。そして、栄えある各賞を受賞されました皆様へ、誠におめでとうございました。更に、第30回を迎えることができたことは、この活動に長年取り組まれてきた多くの皆様、関係者・関係機関・団体などの方々のおかげであり心から感謝申し上げます。

アフターコロナの必須パートナーは、「花やみどりと仲間たち」

年の初めには全く想定していなかった新型コロナウイルス感染症が瞬く間に日本中・世界中に拡大し、ついに4月16日には全国に緊急事態宣言が出されました。人と人との接触を極力避け外出の自粛も求められました。そのような中、庭や散歩の道、公園、土手の草花など普段気づかなかった身近な花やみどりの日々の変化に触れることが、心身のリフレッシュになることを実感しました。皆様も今年の花のまちづくり活動は、いろいろな困難に直面したことと思いますが、その一方で、身近な花やみどり、そして共に活動する仲間励まされたことと思います。今回の自粛を全国民が経験したことで多くの方が青空の下で花やみどりに触れ、感染防止を図りながら人と人が交流することの大切さに気付いたことと確信します。まさにwithコロナで気が付いた「花やみどりと仲間たち」の重要性は、アフターコロナにおいても私たちの必須パートナーと言えるでしょう。

全国花のまちづくりコンクールの審査方法も、感染症拡大の影響を受けて現地審査を変更しました。従来、第一次審査で大賞候補に選出された地区すべてに現地審査を実施していましたが、今回は、従来通りの現地審査、Webによる審査、書類審査の3パターンで行いました。初めての試みでもあり、審査対象の皆様には大変お手数をおかけしました。更に、大変残念なことで、感染状況が見通せない中、表彰式及び優秀事例発表会の開催を中止することとなりました。そのため、報告書の充実や大賞受賞者の活動概要をHPに掲載しますので、花のまちづくり活動の発展に役立ててください。

大賞受賞者の注目すべき高く評価された取り組み

井上 善人氏は、所有するみかん園跡地4,000㎡を水仙の丘とすべく、ラッパ水仙を分球しながら丘全体に植栽。今では多くの方が訪れる花の名所となっています。その活動の思いは、淡路島を花で元気にしたいという一念で貫かれており、その活動に共鳴した人たちが「水仙の丘 貸花壇友の会」を創設し活動の輪が広がっています。

株式会社平井料理システム「仏生山の森」は、居酒屋やレストラン等を経営する会社が農業試験場跡地に作り上げた、宿根草を中心とするガーデンや農園とレストラン、カフェが一体的に構成された心地良い空間。農園の花や野菜を食材に用いて残渣は堆肥化してリサイクル。人材育成にも力を入れています。

市民協働「熊谷の力」小江川地区1000本校事業は、里山地域の不法投棄防止や防犯、桜の名所づくりなどを目標に10年かけて1000本の桜を植栽し、現在も植栽や管理を続けています。管理には機械の使用が不可欠等難しい作業もこなし、活動資金の確保やPRのためにイベントに参加するなど、活発な活動を展開し、郷土を守り育てています。

鈴木 良枝・勝義夫妻は、皆が花や緑を楽しむ中で心の和む場となるよう努めているという言葉どおり、今年のコロナ禍でのオープンガーデンでは、来園者から「気持ち良かったね」という感想が多く寄せられたとのこと。非常に勉強熱心で、草花やバラなど四季を通して色の組み合わせ、高低差、奥行きのあるデザイン等その美しさは目を見張るものがあります。

社会福祉法人浄英会 恵和こども園は、0歳児から5歳児までの園児304人の大規模なこども園で、「はっけん！・はっけん！」を合言葉に、年代ごとに創意工夫したカリキュラムの下、花育に取り組まれています。園児は、花や緑に触れ、気づき、感動する中で、思いやりや命の大切さを学び、地域の活動にも参加しています。このようなこども園の取り組みは、子ども達の考える力や協力し合う心など情操教育や科学的思考の醸成に資するものであります。

以上、第30回を迎えた全国花のまちづくりコンクールの審査講評を終わります。今後とも楽しい花のまちづくり活動に取り組まれますとともに、新たなメンバーを交え活動が更に発展されますことを祈念いたします。誠にありがとうございました。



公園島淡路をめざして ～水仙の丘～ || 個人部門 井上 善人 兵庫県淡路市

活動のきっかけ

老後のセカンドライフをどうするか考えていた頃、淡路島では「あわじ花回廊計画」、「公園島淡路」を目指す機運が高まっていました。住民と一緒にわが町を美しくしようと「花とみどりの協会」を設立・推進してきた経験を活かして、花づくりを決意。丘陵地に両親が作っていたみかん園4,000㎡(4反)が廃園になっていたため、そこを花園にして、公園島淡路の一助にできたらと思い立ちました。さて何を植えようかと考えたとき、淡路島の灘地区に日本3大水仙郷があり、日本水仙が1月～2月頃に咲いて多くの観光客が訪れていることを思い出しました。自宅には3月～4月に咲く黄色のラッパ水仙が1,000球ほどあったので、1月～4月に水仙を長期間見せたいと考えました。

活動の概要と努力している点

廃園のみかん園を少しずつ整備造成しながら、自宅にあった球根を植え、毎年掘り起こし、乾燥、分球をひたすら繰り返しました。黄色のラッパ水仙を13年間植え続けて、ようやく水仙の丘は完成。球根は10万本に増え、早春の陽光を浴びて咲き誇っています。水仙の種類も少しずつ増えて17種類になりました。小型の水仙はいい香りを放っています。園内に設置した巣箱で小鳥の子育てを見たり、餌台に来る野鳥のさえずりを聞いたりと、春を感じる演出も心掛けています。また、淡路島では竹が繁殖して放置竹林が増え、里山を脅かしています。そこで、10年程前から竹工作を始めました。テーマは「竹と遊ぼう、体験しよう」。竹笛やガリガリプロペラなどの工作、竹馬、竹ボックリを楽しめるようにしています。竹製の小屋、椅子、巣箱などを作って園内に設置するほか、小学校、子供会、老人大学等に向いて竹工作教室も開催しています。



活動の成果と今後の展開

水仙の丘が2008年に「あわじ花へんろ」48番札所、2013年に「淡路島百景」に選定され、切手にも採用されるなど、とても感激しました。加齢とともに維持管理に苦慮してきたので、私の活動を知ってもらおうと、淡路島内の花の団体や花好きの方を招いて「花づくり交流 in 水仙の丘」を開催し、色々な提案を頂きました。その一つとして、希望者には園内の花壇の一部を無料で貸し出し、水仙花壇をお手伝いして頂くことにしました。現在、8区画を30名の会員さんにお貸ししており、そこで育てた球根を会員さんが自宅の庭や道端、公園などに植えています。個人や団体にも無償提供しているので、水仙の丘の球根は島内のいたるところに植えられています。



昨年10月、東日本大震災と阪神淡路大震災の被災者交流として、福島県南相馬市へ淡路島から10人が訪問。球根1,000球を持参して地域の皆さんと「メモリアル水仙花壇」を作りました。今春、美しく咲き揃いましたと写真付きで報告を受け、「心の絆」が結ばれたと喜んでます。公園島淡路を目指して23年。貸花壇の皆さんと花談義をしたり、「今年も綺麗に咲いたね！」と感動の声や労いの言葉を掛けられたり、多くの人との出会いがありました。これからも花づくりを未永く続けたいと思います。

講 評

地域特性を考えて、地元の活性化に繋がる美しい景観を創出する地道な取り組みが大変高く評価されました。



仏生山の森から始まる地域活性と住民との交流 || 企業部門 株式会社平井料理システム「仏生山の森」 香川県高松市

活動のきっかけと概要

創業35年目に高松市郊外の仏生山地区でレストランを開業。隣接する庭園、レストランで使用する野菜、果実、ハーブ類などを栽培する農園や季節ごとの花畑(夏:ひまわり、秋:コスモス、春:菜の花)を合わせた周囲一帯を「仏生山の森」と名付け、人々の憩いの空間を創出するために、「食」と「緑」の融合による花のまちづくりを始めました。

庭園や農園で収穫した作物を取り入れた食を通じて緑に触れることを中核に、県主催イベントに会場を提供したり、庭園の草木や花を通じて地域住民や病院・デイケアセンター・保育所の利用者と積極的に交流しています。毎年「ひまわり祭り」などのイベントを開催してより広範囲に仏生山地区の魅力を発信し、花と緑をツールとして、地域の人たちに癒しを提供しつつ、流動人口を増加させ、地域を活性化させることを目指しています。

活動で努力している点

「仏生山の森」は、草抜きや清掃を行うレストランのスタッフに加え、庭園管理担当、農園管理担当のスタッフを配置して「100年続く庭」をスローガンに運営しています。一年を通して美しさや豊かさを感じられる植物選びと植栽を心がけており、19,000㎡の広大な土地では、庭園が見せる四季折々の表情の豊かさ、野菜が整然と育てられている農園の美しさ、季節ごとの花畑の華やかさが、訪れる人たちの目を喜ばせて心を満たしてくれます。庭園の外縁部やレストランのエントランスには、散歩に訪れる地域住民に楽しんで頂くための植栽を施し、緑の空間が周囲の風景と遊離しないように景観の連続性にも気を配っています。

また、四国で生育に適さない植物は採り入れず、植物の組み合わせに留意することで農薬使用を極力抑え、園芸及び農業残渣を堆肥化して物質循環を促し、生物の生育しやすい水辺を設けるなど、環境への負荷を低減しました。水不足に悩んできた香川県では、庭園や農園の水の確保は大きな課題です。井戸水の利用や排水力と保水力をもった土壌づくりの工夫で対処しています。

活動の成果と今後の展開

景観が緑豊かな美しいものへと変化してきたことで、人々の交流が格段に増えてきました。この緑を介して、地域の人たち、各種施設の利用者、レストランのお客様と私たちの中で、気軽にあいさつを交わす関係ができています。「高松の仏生山にはお花のきれいなところがある」という評判が広まり、県外からの来訪者も数多くみられます。庭園に咲く花のジャム作りや、エディブルフラワーを使った華やかな料理を作るなど、自然の息吹を感じながら料理を提供できることはスタッフの心の充実にも繋がっています。

今後は、植物を中心とした環境教育イベントの開催や、農園で収穫した野菜を用いた料理教室による食育などの文化的活動、さらに収穫した作物を利用した加工食品の開発を進め、「食」と「緑」の複合施設としての認知度を上げて、より多くのお客様に寛いで頂けるように取り組みます。



講評

宿根草が際立つ美しいガーデンや緑豊かな農園を活用して、地域の多くの方に散策や遊びを楽しめる憩いの場を提供していることや、環境に配慮した業態が総合的に大変高く評価されました。



住民の夢に一步近づいた花のまちづくり || 団体部門 市民協働「熊谷の力」小江川地区1000本桜事業 埼玉県熊谷市

活動のきっかけと概要

市町村合併で熊谷市となった旧江南町は、森林が17%を占める田舎町です。遺囑を過ぎた住民が目にしてたのは、凄まじいゴミの山、不法投棄の山で、そのまま放置するとこの山はますます大きくなる!という危機感を持ちました。里山に手を入れず30年も放置すると昔の面影はなくなります。農道や林道に面した区域は「篠や雑草」に覆われて道を塞ぎ、枯れ枝の落下は通行の障害になりました。

こうした問題意識が高まる中、2009年に熊谷市の「市民提案制度」に応募して採択されたのが活動のスタートです。活動の目的は荒廃した里山を解消することで、桜を植えることは方策・手段でした。毎年、荒地を開拓して桜の苗木100本を植栽するという10年計画で、1月最後の日曜日から3月最初の日曜日まで毎日曜日がボランティア活動です。毎回50名程の参加者が来てくれて大きな戦力となり10年計画を達成出来ました。

活動で努力している点

参加者や協力者とのコミュニケーションが一番大切で、情報の共有化を図っています。刈払い機やチェーンソーを使う作業は特に注意を要するので、大勢での作業でも全員が緊張感を保持できるよう、作業時間は2時間と決めています。また、小中学校、自治会、公共施設や介護施設等で私たちの活動を積極的にアピールして仲間意識を広げています。桜の成長は年を追うごとに目覚ましく、春には開花が待ち遠しい名所へと変貌しつつあります。



活動の成果と今後の展開

植栽の総延長は12km、桜並木は5.2kmにもなり、自主的に放置林を伐採する地権者もでてきました。想定外の成果も3件あります。1つは40年振りのゲンジボタル復活。雑草に覆われた川辺に日が射し、餌となるカワニナが生息する環境に復元できたからです。2つ目は廃寺の石碑の発見。石碑は修復保存されて後世に継承することができました。3つ目は桜の植栽方法。植栽間隔を10m確保するには距離1kmを要し、毎年1kmを確保するのが難しいことから、当初の「線」の植栽から「面」の植栽も採用した結果、オオタカのがつがいが移り棲める好環境となりました。

植栽区域内にある老人ホームからは、利用者が朝に夕に桜ロードを散策してとても丈夫になりましたと喜ばれています。うれしい限りです。10年計画を達成し、今後は苗木の成長に合わせた維持管理活動が中心になります。コースにはルート看板や案内板を設置してガイドマップも準備しています。PR活動用として紙芝居と展示パネル(ビフォーアフター写真集10年の歩み)を製作。費用は県、民間企業、熊谷市等からの助成金を12年間支給して頂き原資とさせてもらいました。活動を継続できたのもこうした皆様のご支援のお陰だと感謝しております。

私達が植栽している桜は「神代曙」です。サクラ類でんぐ巣病に罹りづらく、「染井吉野」より開花が数日早く、花色がやや濃いのが特徴で、最近注目されている品種です。多くの訪問者を魅了すると期待できることから、私たちの活動の原動力になっています。



講評

提案型協働事業で荒廃林が自然と人間が共生する地域資産に蘇り、地域の絆づくり、活性化、振興にも繋がっていることが大変高く評価されました。



小さなきっかけで始まった自宅のガーデニング || 個人部門 鈴木 良枝・勝義 静岡県袋井市

活動のきっかけと概要

自宅敷地120坪の約半分が花壇作りを始めて14年、バラと草花のハーモニーを楽しむオープンガーデンとして11年が経過しましたが、活動のきっかけは小さなことでした。



2004年の自宅建て替えと翌春の退職を機に庭の整備と花壇作りを始め、家の道路沿いの60cm幅の土地にも花壇を作りました。翌年、種播きから育てたデージーがとても可愛らしく咲いたので、何気なく「袋井市花いっぱいコンクール」に応募したら受賞。いざ評価されると「もっと考えて工夫して取り組むべきだった」と反省しました。これがきっかけで庭づくりの想いが高まり、オープンガーデンやテーマパークの見学、プロのガーデナーの講演や通信講座等でガーデニングを一所懸命学びました。主人と二人三脚で実践して反省する繰り返しでしたが、花を育てる楽しさを味わい花に癒されました。バラの季節には450名程の見学者が訪れ、楽しいひと時を過ごされています。

活動で努力している点

花に囲まれ心も庭づくりを目指して、可愛い一年草や珍しい宿根草、バラや花木を植え、大人も子供も親しめて発見の喜びを味わえるように努めています。また、毎年、庭のどこかに変化やアクセントをつけています。有機肥料のブレンドや自作雨水タンクの設置、農薬の減量、ごみ処理などにも気を配っています。高低差のある植栽や空間を活用した立体的な作り、スクリーンのような平面の広がりなど、面積以上の効果が出るように工夫を重ねてきました。こうした努力の積み上げで、活動当初に比べても大きく変化し進歩していると感じています。

講評

高い栽培管理技術を持ちながらも花仲間と研鑽を積み、二つの会で役職に就きながら市主催のイベントで講師を務めるなど、地域に根付いた積極的な活動も大変高く評価されました。

活動の成果

花緑を愛してプラス思考で庭づくりを続けたことが「中遠オープンガーデン花仲間」と「袋井市花の会」への参加に繋がりました。磐田市・掛川市・袋井市を巡るオープンガーデンツアーでは案内役として花のある暮らしを啓発し、地域花壇のレベルアップや行政との連携等にも取り組んでいます。コミュニティセンターを中心に花のまちづくりを広める袋井市の活動には寄せ植え講師として参画するなど、二つの会の役員として地域の花のまちづくりに微力ながら積極的に協力しています。

毎年、地元の幼稚園児が訪れて、花に触れ、花を使った遊びを楽しみ、半日を過ごしています。主体的な遊びの中、一人ひとりの個性が光っていて、感性や思いやり、花を大切に育てる心が育ってくると期待しています。今年は新型コロナウイルス感染症拡大で自粛生活を強いられましたが、見学者や休校中の親子の心を癒すなど、花のもつ力の尊さを痛感しました。

今後の展開

自宅の庭づくりに今まで以上に力を注ぎたい。ミニ寄せ植えや花の装飾作りなど、大人も子供も参加できる場を設けて、楽しいひと時を過ごす参加型活動の展開を考えています。大勢の友に恵まれて花のまちづくりやボランティア活動を永年継続できたことに感謝しつつ、若い世代への啓発や花緑の溢れた潤いのあるまちづくりの広がりを目指したいと思います。



未来に咲く花 ～恵和のこども～ || 団体部門 社会福祉法人浄英会 恵和こども園 新潟県長岡市

活動のきっかけと概要

1982年に恵和保育園として誕生し、2018年度には0歳児から5歳児までを対象とした幼保連携型認定こども園に移行しました。設立当初から始めた近隣の美化清掃がきっかけで、住民との交流が芽生え、四季折々の彩りに溢れた花づくりを園児、職員、保護者が一緒になって活動してきました。現在、園児は304名で、毎年のテーマに合わせた発達年齢プログラムの中で体験しています。秋の種取り、落ち葉を集めての堆肥・土づくり、草取り、種まきからの自家生産苗の育成、水やり、収穫、この一連の活動を園児が主体的に体験できるようにしています。



活動で努力している点

(1)「はっけん！・はっけん！」～子どもたちの気づきを大切に～

これを合言葉に子どもたちは園庭や野外に出かけます。教育・保育計画と連動して遊びの計画を立てており、活動の狙いに沿って何を体験すべきかを年齢に合わせて環境整備しています。

(2)豊かな体験活動と食育

花づくりからは、たたき染めや藍染め、園児の製作や作品作りをしています。土づくりからは、何がゴミになるのか、土に還るものは何か、循環や食物連鎖を学んでいます。自然の中で過ごすことが楽しいと感じる活動と園庭環境が子どもたちの原体験となり、未来に繋がると信じています。

前回受賞時との違い

どうしたら子どもたちの心が動くのか、より深い学びになるのかを考察カードを作成することで園児の気づきを検証しました。保護者には、保育ドキュメンテーションを使い、伝えることで喜びを共有しています。話しあいや振り返りで職員にも新たな気づきが生まれ、一人ひとりの成長を共有しています。

活動の成果

卒園児が保護者や保育者となり園に戻ってきてくれます。子育て支援センターの利用や入園希望も増え、ここで過ごさせたいと言って下さることは本当に喜びです。中学校との職場体験交流、保育士を目指すための保育参加や実習も多くなりました。乳幼児期に五感で感じ、思いやりの心を育てる活動の成果だと実感しています。

今後の展開

(1)ネットワークづくり

気候変動を実感しています。植物は長岡の風土に合うだけでなく、気候の変化に合うものを選ばなければならないこと、花の時期や育て方、工夫が必要になりました。長岡市は「花づくり、まちづくり、ひとつづくり」をスローガンに、みんなで自分たちの住むまちづくりをしようという活動が継続・浸透されているため、花いっぱい活動が地域に根づいています。人生のサイクルの中で必ずどこかで出会う活動なので、いつでも相談できる場やネットワークが大切だと感じます。

(2)「はっけん！・はっけん！」へ

地元の気候風土に合った園児の自然教室や体験活動「ふるさと探検隊」を継続し、活動を「はっけん！」させます。今年も園庭の花々は咲き、緑は生い茂り、鳥や虫たちも子どもたちの身近な存在です。園児が成長した未来にはどんな花が咲き、どんなまちづくりをするのか楽しみです。

講評

子ども達の考える力や協力し合う心など情操教育や科学的思考の醸成に資しており、継続的に改善を実行する姿勢のほか、世代を越えた幅広い交流がみられる点も大変高く評価されました。

団体部門 浦戸諸島「海と花の物語」

宮城県塩竈市



浦戸諸島は日本三景の松島に属する島々からなる離島で、2011年秋から有人の桂島を中心に活動を実施しています。東日本大震災で被災し、過疎化が進む島民を元気づけようと、塩竈市内在住の代表が同年11月に全国から提供されたチューリップなどの球根3,000球を瓦礫が片付けられた土地にボランティアと植えたことが活動の始まりです。現在、32人の会員は主に桂島で活動しています。スイセン等の秋植え球根を中心に、四季の草花も加えた花づくりをしており、島民や小中学生、県内外のボランティア団体などと協力しながら、かつて菜の花の島として有名だった島に、ビタミンカラーの黄色を基本色として、海と花がコラボした美しい風景づくりを目指しています。

花の力で被災地に元気をもたらしたい、おすそ分けしたいという気持ちが伝わる活動が高く評価されました。



団体部門 大湯「パンジーの会」

秋田県鹿角市



国の特別史跡に指定された大湯環状列石に隣接する休耕地(4,000㎡)で2006年に花壇づくりを開始。ほぼ全ての草花が自家生産で、市内の施設や花壇などに余剰花苗を配布する緑化活動にも貢献しています。地域を元気にしたいという思いが花壇づくりに反映されており、観光資源と花を組み合わせ名所として期待されています。広い花壇面積ながらデザインや管理などは自分たちで行い、草花の特徴を活かした立体的で奥行きのある花壇です。自家生産苗(15,000本)の栽培技術は高く、大湯小学校と連携して「子供たちと笑顔でつむく花のこころ」をテーマに草花の扱い方や植栽の仕方を指導しています。

花壇活動を優しさや素直な心を育む情操教育として活用していることや、地域に密着した活動の輪が確実に広がりを見せていることが高く評価されました。



団体部門 東海村立白方小学校

茨城県東海村



学校内の花壇1,000㎡の他に、花苗の一部を高齢者施設や幼稚園などにも提供しています。2010年から活動を開始し、現在、生徒は587人、職員は41人。中庭の周辺に点在する古墳群の一部が敷地内にあることから、歴史的資産を活かした「いにしえガーデン」をメイン花壇として整備しています。また、屋上庭園も整備されており、児童が身近に自然や草花に触れる機会が増えています。学校では、花の美しさや自然を慈しむ心を育てる情操教育の一環として花壇づくりを位置付けています。全ての花苗10,000本が自家生産苗で、種まきから育苗は栽培委員会が中心に行い、定植などは全校生徒で実施しています。

校内の花壇整備作業を保護者や地域住民に呼び掛けて一緒に行う体制が出来上がっているなど、地域に根付いた活動が高く評価されました。

団体部門 赤羽緑地を守る会

茨城県日立市



2003年から25名で赤羽緑地(73,000㎡、愛称：自然観察ふれあい公園)の維持管理と魅力向上に取り組んでいます。軟弱地盤で放置されていた市有地が公園化されたのを機に、公園里親制度を活用した維持管理が始まりました。雑木林や大小の池がある立地を活かしてミズバショウの群生地を整備した他、丘陵地に生育していたヒガンバナを拡充し、2019年には新たな花壇も造成しました。

子どもや市民が対象の自然観察会、生き物採集会、お花見コンサートなどを開催すると共に、活動を通じて再発見された遺跡(赤羽横穴墓)の整備・案内にも取り組んでいます。

荒廃地を地域の資産・交流の場に協働で再生した事例で、小学校の環境教育の実践の場としての活用や高校生の自主的な協力もあり、地域に定着している点が高く評価されました。

団体部門 袋井市花の会

静岡県袋井市



花のまちづくりを通じて人々の輪を広げ、「人も自然も美しく活気あふれる健康文化都市」を目指して、1967年に、婦人会・老人会・観光協会・ライオンズクラブが集まって結成されました。袋井市花の会には10支部あり、60代から80代の会員83名で活動しています。各支部が駅前広場などの公共施設や公園、道路沿いの花壇などを受け持ち、11箇所・計425.3㎡で取り組んでいます。デザインはその年に開催されるイベントなどをモチーフにし、それぞれの場所の環境に合わせた花壇づくりに努めています。

美しい景観づくりにつながる花壇整備活動のみならず、特別支援学校等での花育など、半世紀以上の長期にわたる花と緑のまちづくり活動が地域課題の解決や地域振興に繋がっていることが高く評価されました。

団体部門 つりがねにんじんクラブ

静岡県三島市



市内のバサディナタウン分譲地内で、道路沿い・児童公園・集会所・河川公園など、6箇所・120㎡で花壇づくりをしています。道路沿いの荒れた空き地の美化を目的に、花好きが集まって始まった花植え活動は2005年から16年間継続しており、通行人の目を楽しませて新たな地域交流を生むなど、花と緑のあるまちづくりに貢献しています。手入れの行き届いた美しい花壇、緑豊かな町内環境にマッチした花壇を意識して花植えをしており、花壇それぞれに色合いや高さなどの組み合わせを変えて立体的な花壇を作っています。花苗は種からの育苗に注力し、植栽される花苗の半数を自家生産苗が占めています。

工夫しながら新しい植物に挑戦している点や、厳しい天候の中でも良く手入れされた花壇が高く評価されました。

団体部門 新川姫蛭と花を守る会

大阪府高槻市



希少な陸生蛭であるヒメボタルが生息する新川河川敷の遊歩道約700mで、蛭の保護活動と花づくりを一体的に行っています。2003年から活動を開始し、国土交通省の認可を受けて1kmに渡る土手の清掃活動も実施。活動場所は、市街地でありながら自然が残っており、春には桜も咲きます。蛭の保護活動や環境美化活動が市民に伝わり、ゴミのポイ捨てが無くなり、ゴミを拾ってくれる住民も増えました。蛭保護のための滅灯や活動費のためのアルミ缶提供など、周辺企業も積極的に協力して活動の輪が広がっています。

土手の管理方法を国土省河川管理事務所や高槻市と粘り強く協議して適正に運営する取り組みや、河川占有許可を得て「蛭の生息環境保全と花のまちづくりとの連携」を行っている点が高く評価されました。

個人部門 益田 満智子

静岡県吉田町



2011年より、自宅周辺道路沿いを散歩道として花で整備すると共に、自宅庭の花桃や桜など植栽を見学者に開放しています。また、吉田町の町花「菊」の栽培技術を絶やしたくないという思いから、菊栽培に精通した方に指導を仰ぎ、菊栽培にも挑戦。秋には前庭を大菊、懸がい菊、ろうそくなど様々な菊鉢で飾り、「20周年アニバーサリーワールドフェスタ2016 in Yoshida」時には吉田町体育館の飾りつけにも協力しました。

警察署前、小山城なかよし花壇、吉田町花の会やまびこ花壇、吉田町立自彊小学校ガーデン、支援学校などで地域ボランティアのメンバーや児童と一緒に花壇やコンテナによる花づくりを実施したり、小学校での寄せ植え教室にも参画するなど、地域住民への普及を促す取り組みや質の高い花飾りが高く評価されました。

個人部門 中谷 邦子

兵庫県豊岡市



2002年より、自宅の庭(200㎡)、隣接する休耕地(30㎡)、近くのお寺(玄関前の寄せ植え)で花づくりを開始。緑豊かな田舎暮らしをしようと、夫婦で神戸市から旧但東町に移住してガーデニングに取り組みました。庭造りは「四季折々の風情が感じられる癒しの庭」を目標に、宿根草やバラを中心として、自作のメールボックス、プレート、トールペイントしたコンテナなどを組み合わせ、高低差と色彩に溢れるボリューム感ある花飾りを外向きに展開しています。県主催のイベントにも参加要請がくるほど草花の知識や栽培管理技術は高く、花仲間や関係者から頼られる存在となっています。

ガーデニングを楽しむだけでなく、地域に花づくりの輪を広げようとクリスマスやお正月用に飾る寄せ植え教室を長年開催するなど、花と緑で潤いのある生活空間を創造し続けていることが高い評価を得ました。

個人部門 松浦 さつき・千春

兵庫県たつの市



自宅庭と休耕地(約12a)に1年草を中心とした花園づくりに姉妹で取り組んでいます。昭和30年頃の減反政策を機に、祖父が「目と心に栄養を」との想いで休耕地に花を植え始めました。その想いを母が引き継ぎ、愛情をもって育てた花園は「ちづちゃんの花園」の名称で地域内外に幅広く親しまれ、「西播磨花の郷」として定着しました。2019年に母が他界し、娘姉妹で活動を継続し、SNSやHPを利用しながら花のまちづくりを推進しています。通年で公開している花園には3,000人もの見学者が訪れ、春にはコンサートが開催される他、ワークショップやイベントにも活用されるなど、地域住民の交流拠点にもなっています。

親子3世代で紡いできた花園は花の魅力が最大限に発揮されており、訪れる人に感動を与える観光名所になるなど、大きな波及効果が高く評価されました。

個人部門 寺尾 康男・桂子

兵庫県朝来市



2003年から夫婦で自宅のオープンガーデン(200㎡)での花づくりや朝来市内の花のまちづくりに取り組んでいます。きっかけは、2002年の朝来花いっぱい協会での活動に町役場職員として関わり、夫婦ともに花好きであったことから現在の活動に繋がっています。オープンガーデンは開催当初より継続して参加し、年間300人以上が訪れる人気ガーデンです。地区内の遊休地での花の植栽、駅やバス停でのプランター設置など、公共地での花のまちづくりも積極的に実施しています。また、自身が代表を務める「なでしこの会」は、夜久野高原花畑の維持管理や、県の花緑いっぱい運動推進委員(但馬地域)も務めています。

美しいオープンガーデンだけではなく、地域での活動に積極的に取り組みながら実績を上げていることが高く評価されました。

花のまちづくり奨励賞 審査委員会賞

荒尾市



市町村部門

熊本県荒尾市

黄金自治会



団体部門

宮城県涌谷町

向陽台四丁目公園 愛護協力会



団体部門 宮城県仙台市

南内越花いっぱい ボランティアグループ



団体部門 秋田県由利本荘市

みなべ町立高城小学校



団体部門 和歌山県みなべ町

後藤 光三・圭子



個人部門 秋田県大仙市

三坂公民館



団体部門 栃木県茂木町

中之条町花の会



団体部門 群馬県中之条町

寺崎 啓乃



個人部門 富山県富山市

宮野 裕子



個人部門 富山県砺波市

西宮市立段上小学校 園芸美化ボランティア



団体部門 兵庫県西宮市

花てまりの会



団体部門 和歌山県那智勝浦町

静鉄プロパティマネジメント株式会社



企業部門 静岡県静岡市

南海電気鉄道株式会社なんばパークス



企業部門 大阪府大阪市

団体部門

仙台市立柳生小学校



宮城県仙台市

会津若松市立川南小学校



福島県会津若松市

春日井市老人クラブ 関田東高砂会



愛知県春日井市

春日井市立東高森台小学校



愛知県春日井市

東園グリーン&フラワークラブ



愛知県尾張旭市

松平松風会



茨城県常陸太田市

旭町西区会



茨城県笠間市

伊賀野の花畑



群馬県みなかみ町

有脇菜の花クラブ



愛知県半田市

花いち会



愛知県半田市

いきいき刈谷友の会ガーデニング部会



愛知県刈谷市

川場美しいマチ研究会・
門前まちづくり委員会



埼玉県新座市

南大野自治会



神奈川県相模原市

中在家多面的活動団体



新潟県十日町市

刈谷市小垣江地区自治会



愛知県刈谷市

U.R 笹川なでしこ会



三重県四日市市

甲斐町水郷会



三重県鈴鹿市

富山市立船峯小学校



富山県富山市

富山県高岡市立野栄町自治会
花づくり会



富山県高岡市

醍醐公民館 花と緑の推進部会



富山県高岡市

すみれ・花フレンズ



大阪府大阪市

寺本自治会 華の部



兵庫県伊丹市

ガーデニング倶楽部



兵庫県神戸市

かわづ花の会 筏場地区花壇



静岡県河津町

浜松市立泉小学校



静岡県浜松市

伊豆の国市商工会女性部



静岡県伊豆の国市

西宮市社会福祉協議会
地域共生館 ふれぼの



兵庫県西宮市

姫路市立城北小学校



兵庫県姫路市

名塩さくら台景観緑化クラブ



兵庫県西宮市

伊丹市フラワーリーダー 8 期生



兵庫県伊丹市

鶉野中町花家族の会



兵庫県加西市

網干公園みどりの会



兵庫県姫路市



村井 有子



群馬県太田市

須川 伸夫



富山県南砺市

下里ともこガーデン



和歌山県那智勝浦町

古尾花の会



和歌山県田辺市

田辺市神子浜町内会



和歌山県田辺市

宮崎 桂子



三重県津市

有働 美穂



三重県伊賀市

末松 和佳子



兵庫県神戸市

白浜町立南白浜小学校



和歌山県白浜町

海南市立巽小学校



和歌山県海南市

かつらぎ町立梁瀬小学校



和歌山県かつらぎ町

奥川 きみ子



兵庫県西宮市

尾花 幸雄



兵庫県加西市

諏訪 早苗



兵庫県姫路市

楽々花グループ



広島県広島市

檜原ゆうあい会



山口県下関市

若松こうさてん美化 Gr



福岡県北九州市

三村 雅之



兵庫県姫路市

刈尾 安正・希美子



兵庫県たつの市

藤田 妙子



兵庫県朝来市

箱崎花の会



福岡県福岡市

フラワーアップ高宮



福岡県福岡市

霧島市立天降川小学校



鹿児島県霧島市

太田 よしの



兵庫県香美町

松本 直美



兵庫県南あわじ市

那須 幹夫



和歌山県田辺市

桐原 将臣



和歌山県田辺市

森 千明



和歌山県上富田町

森山 幸代



和歌山県田辺市

宇都 豊行



福岡県北九州市



企業部門

まごころ*でい*藤枝南



静岡県藤枝市

一般社団法人
御堂筋まちづくりネットワーク



大阪府大阪市

大泉緑地 指定管理グループ



大阪府堺市

社会福祉法人神愛会



和歌山県上富田町

戸畑なかしま歯科



福岡県北九州市

しもつけオープンガーデンクラブ



団体部門

片上まちづくり協議会生活環境部会



団体部門

福井県鯖江市

松本 捨吉



個人部門

大阪府富田林市

介護老人福祉施設 豊田一空園



団体部門

静岡県磐田市

努力賞

年輪賞

四つ葉賞

大賞受賞者の活動報告をWEBでご紹介

例年、全国花のまちづくりコンクールで大賞を受賞された方々には、具体的な活動内容を発表していただき、皆様の参考となる情報交換の場として優秀事例発表会を開催していますが、本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。

そこで、大賞受賞者の動画や画像を(公財)日本花の会のHPにてご紹介させていただきます。花や緑を通じて地域に潤いと笑顔を届けてくれた受賞者の活動は、いずれも皆さんの花のまちづくり活動に役立つ内容と存じます。11月上旬に公開予定ですので、是非ご覧ください。



(公財)日本花の会ホームページ <http://www.hananokai.or.jp/>

第27回全国花のまちづくり由利本荘大会 開催のご案内

日程： 2021年7月17日(土)・18日(日)

会場： 由利本荘市文化交流館「カダーレ」
(秋田県由利本荘市東町15)



南内越花いっぱいボランティアグループ(秋田県由利本荘市)